

装置ローテータの進捗状況 装置ローテータへの観測装置の設置

第47回望遠鏡および観測装置会議

2018年9月8日

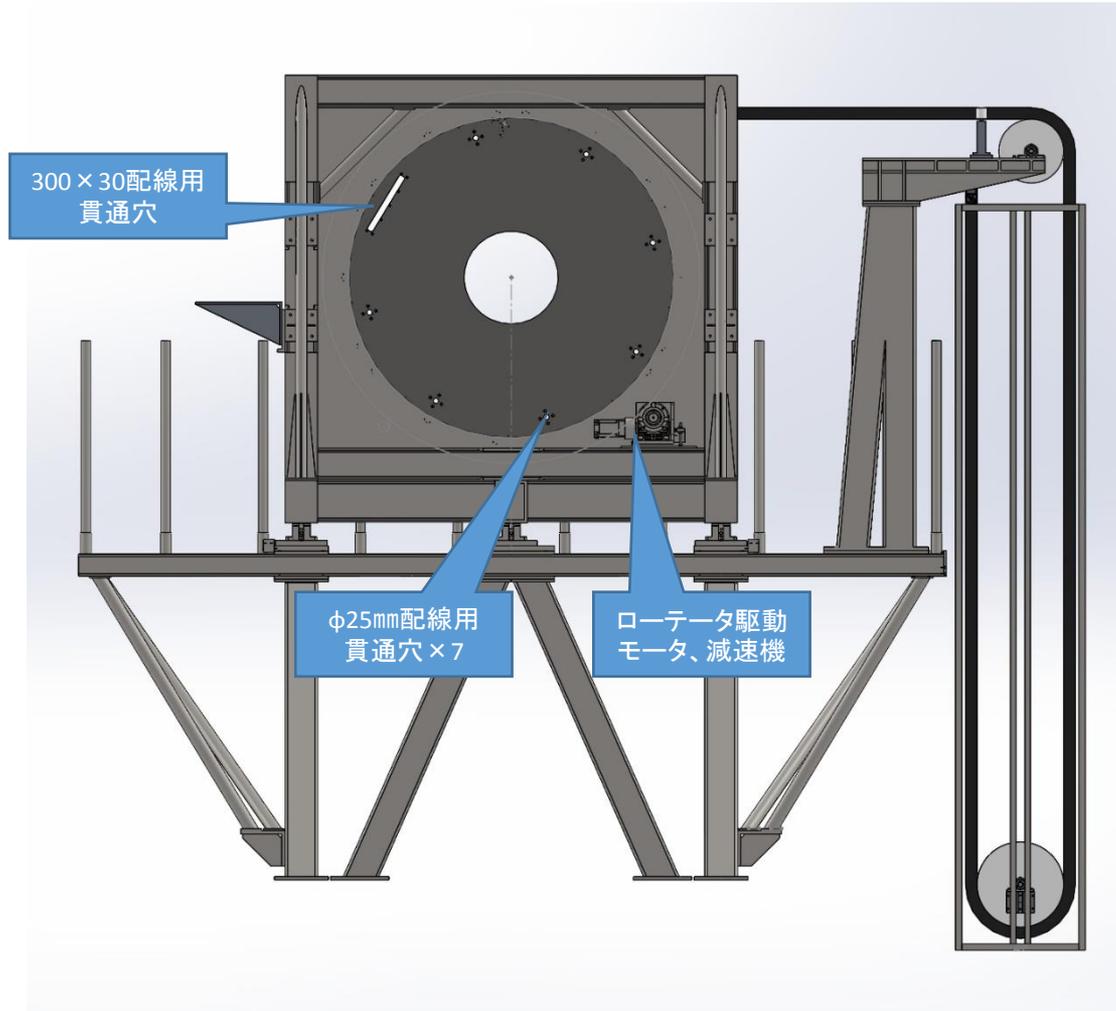
装置開発者等へのアンケート結果に基づき、各精度目標などを決定し、解析および設計を進めた。

おおよその設計が終わった2018年4月19日に西村製作所に、各種相談。

2018年5月16日に西村製作所へ設計データを渡して見積依頼。

小型装置フランジ

内径：460mm、外形：1500mm、t：8mm、SUS430



小型装置フランジ

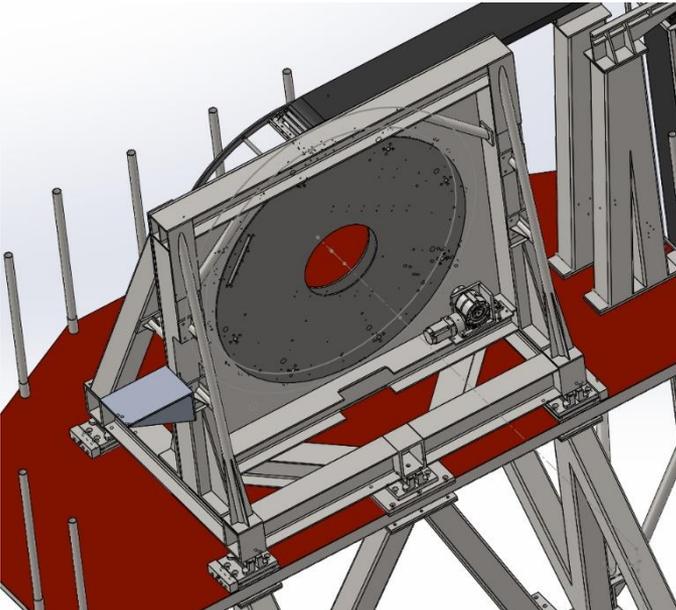
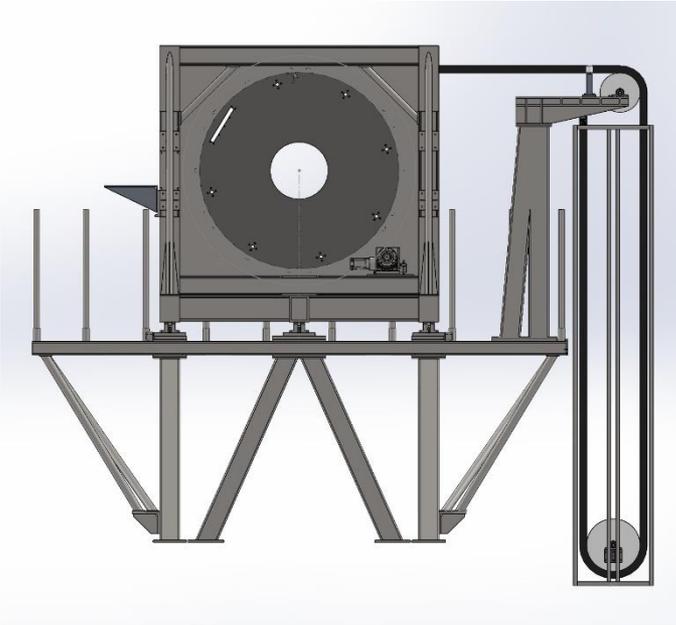
装置の設置について

小型装置フランジの外径からはみ出ると、固定部やモータなどと干渉する恐れがあるので、外径からはみ出さないようなサイズにする必要がある。

フランジ面の構造物との接続はボルトを用いるが、すべてザグリをいれており、フランジ面はフラット。

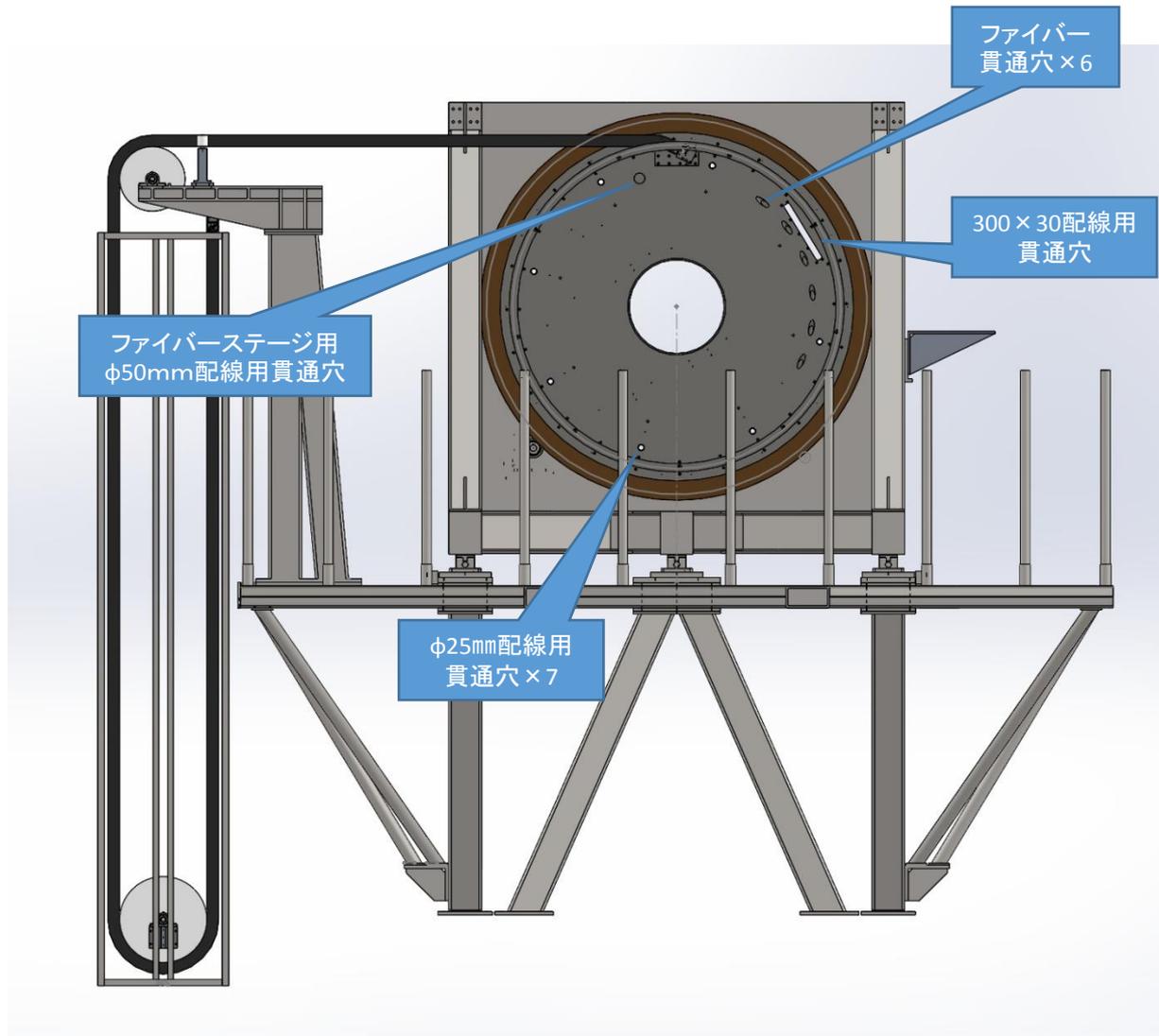
装置フランジはSUSが良いという要望があったと記憶している。

各種アライメントのためマグネットが使用できた方が良いと感じたことからSUS430としたが、特に必要が無ければ、まだ製作していないのでその他への変更は可能。

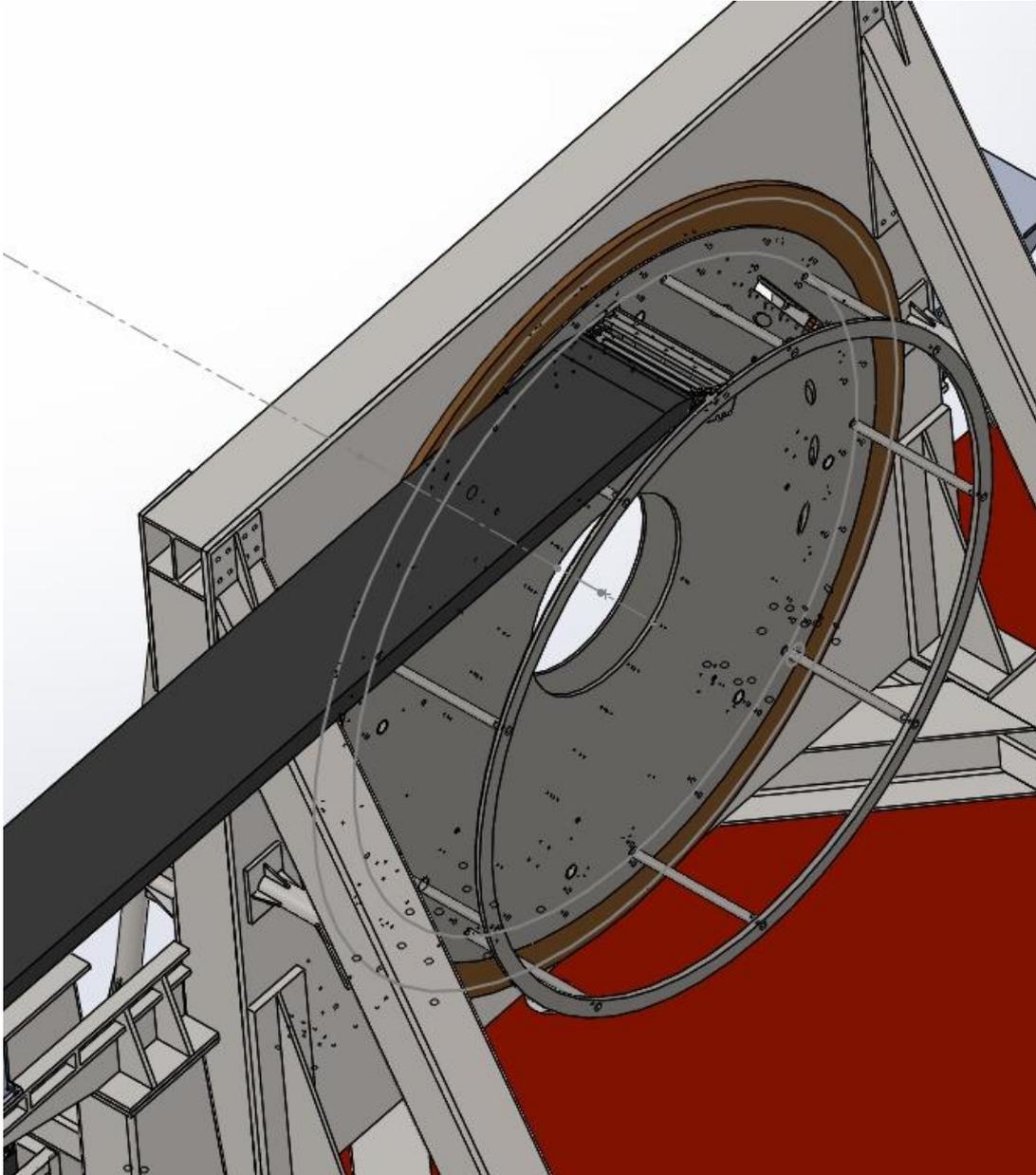


大型装置フランジ

内径：450mm、外形：1800mm、t：10mm、SUS430



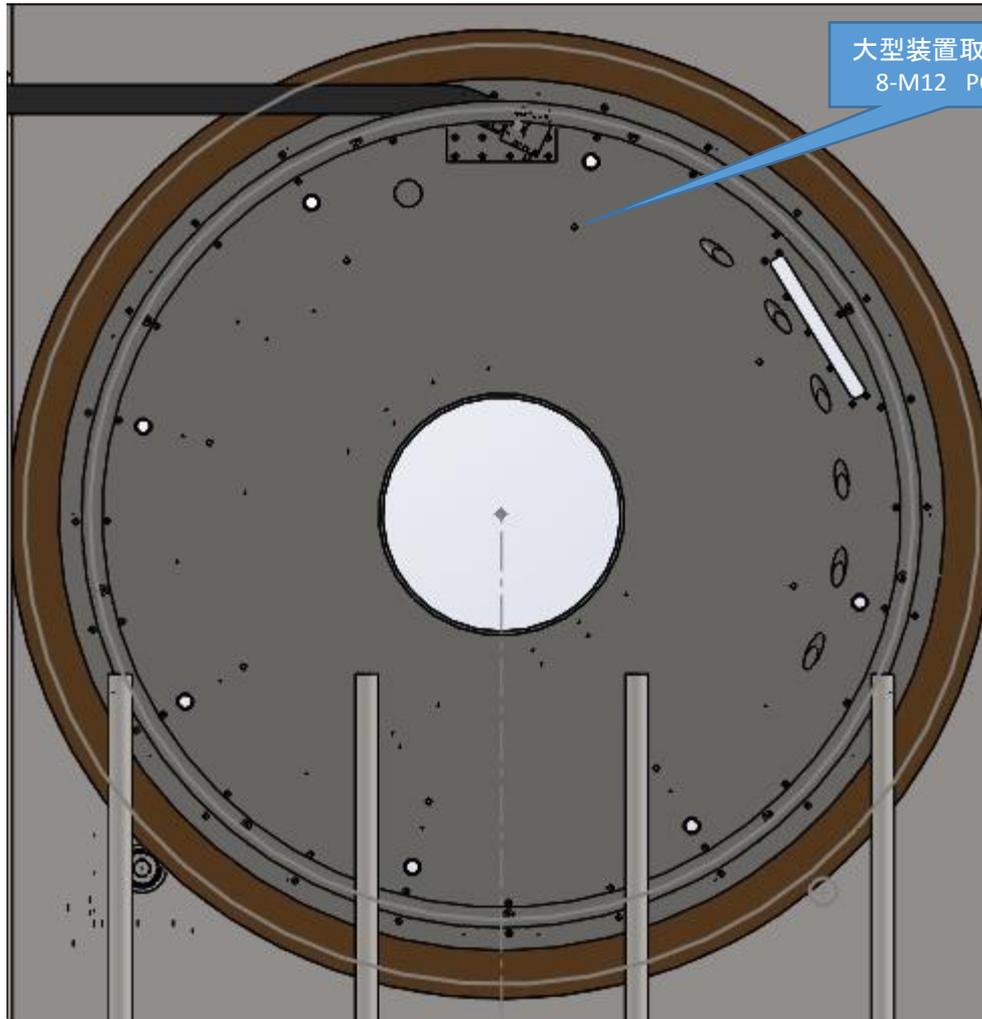
大型装置フランジ



装置の設置について

大型装置フランジの直径は1800mmあるが、ケーブルベアの固定点、ケーブルベアの巻き取りガイド、配線穴、ファイバー穴があるため、装置の設置スペースはφ1150mmの範囲になる。

大型装置フランジ



大型装置取付ネジ穴
8-M12 PCD1100

大型観測装置の取り付けは、 $\phi 1150\text{mm}$ のフランジを想定。

取付は、M12、8本（PCD1100mm）で設計を行っている。

この範囲内であれば変更可能。

